

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 5月 15 日

事業所名 運動発達支援スタジオ笑みりい～大阪狭山

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	運動ができる広さを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準を満たす人員を配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%		入口の段差部分には赤色のテープを貼り、注意喚起を行っていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	児発管を中心に目標設定と振り返りを行っています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年、年度末にアンケート調査を行って業務改善につなげています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者による外部評価は検討中になっています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に研修を行っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0%	100%	事業所独自のアセスメントツールを使っています。	発達検査の実施は事業所で行っていないため、発達検査の結果を保護者様にいただき、支援に反映しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	プログラムの内容を職員全員で考え、提供しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	隔週でプログラムをかえたり、一人ひとりの課題にも対応できるように、プログラムを考えています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	祝日のプログラムにイベント性を持たせたり、長期休暇にはその時期にあわせたプログラムを提供しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	50%	33%	お子さまの課題や保護者様のニーズに合わせて計画を作成しています。	一人一人の課題に合わせた個別活動にも力を入れていきたいと考えています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼でその日の支援内容や役割を確認しています。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼時にはその日の子どもの様子や支援の内容を振り返っています。		
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	業務日誌や個人の記録をつけたり、支援会議をし、職員間で支援の情報共有を行っています		

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		半年未満でも必要に応じて計画の見直しを行っていきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		日々のプログラムが決まっているので、イベント等で 地域交流の機会が持てるように計画していきます。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		管理者と子どもの様子を把握している職員が共に参加できるように努めていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	事前に学校と送迎場所や時間の確認や打ち合わせを行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		該当児がいません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	保護者様の承諾のもと、通っていた園や事業所と情報共有や連携を行っています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%		小学6年生までの利用になっており、該当する利用児がいません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	保護者様の承諾のもと、助言や情報共有を行っています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		今後交流の機会が持てるよう検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	こどもむすぶ会の会議に参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時おさまの様子をお伝えしたり、ラインで連絡も取り合っています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	外部機関のペアレント・トレーニング等の案内を掲示しています。	保護者にも参加してもらえるような研修等の企画をしていきたいと考えています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	見学、体験時や契約の際に書面を用いて説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	連絡ノートや送迎時に頂いた相談等に応じ、必要な助言や支援を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%		昨年は児童発達の保護者を対象に開催しましたが、今年度は放デイの保護者も対象に考えていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情があった場合には迅速に対応できるような体制を整えています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	ホームページのブログで日々の活動内容を掲載したり、ラインのやり取りを通じて、おさまの活動時の写真や動画を見ていただいています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	絵カードや写真等の視覚支援を活用しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		地域のイベント等にも参加できるよう検討していきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	33%	67%	各種マニュアルがあり、定期的に社内研修が行っています。	保護者様にもマニュアルを周知できるよう、体験時や契約時に伝えていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に2回避難訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	定期的に虐待防止研修を設けています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	33%	67%		現時点では身体拘束が必要なお子さまは利用されていませんが、今後必要な場合は計画に記載して、同意いただくようにしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%		食事やおやつ等の提供は行ってないので、指示書に基づく対応は行っていません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットが起きた時は報告書を作成し、職員間で反省と共有を行っています。	